第２章　私たちの目指す空間デザインとは

１．空間デザインの目標と基本方針

○ 空間デザインの目標

長崎市では、長崎駅周辺エリアにおいて、交流とにぎわいを基軸とした新しい長崎の玄関口を形成することを目的に、平成 22 年度に「長崎駅周辺まちづくり基本計画（以下、「基本計画」）」を策定しました。

本デザイン指針は、この基本計画の方向性を踏襲し、次のように目標を設定します。

【空間デザインの目標】

市民・来訪者の交流・にぎわい空間となる

長崎の新たな陸の玄関口の形成

○ 大切にしたい「長崎の個性や強み」

長崎駅を含む長崎内港地区周辺は、かつて海でしたが、明治以降の産業発展に伴い、埋立てが進められ、海岸線には水産、物流などの産業が建ち並んでいきました。

その後、昭和 61 年にまとめられた“ナガサキ・アーバン・ルネッサンス 2001 構想”により、長崎にしかない水辺を「個性」として大事にした都心・臨海地帯の都市改造が行われ、水辺が市民に開かれていきました。現在では、水辺の森公園などが、生活・交流の空間として機能するようになっています。

新しくつくられる長崎駅周辺においても、これまで行ってきた“ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想”の取組みを継承し、「個性」や「強み」を大切にした整備に取り組んでいきます。

長崎駅周辺エリアにとって特に大切にすべき「個性」や「強み」を次ページに整理しました。これらの「個性」や「強み」を十分に生かしながら、ここにしかない空間を形成していくことが、空間デザインの目標を実現するためには重要です。

【長崎駅周辺エリアで大切にしたい「長崎の個性や強み」】

長崎駅周辺エリアの
特長として
生かしたいもの

○ 港に面する頭端駅があること

世界的にも類を見ない「港に面する頭端駅*」というシンボリックな駅があること

○ 多くの人が訪れる長崎の玄関口であること

多様な交通手段の結節点であり、また鉄道・海路の起終点でもあるこのエリアは、市民・来訪者ともに多く訪れる長崎の玄関口であり、長崎の顔となる場所であること

○ 山に抱かれていること

稲佐山や金比羅山などの山に抱かれるように囲まれ、劇場空間のようなドラマティックな地形を有しているまちであること

○ 水辺とつながっていること

長崎の原点とも言える港や浦上川・中島川などの河川といった豊かな水辺とのつながりの中で生きてきたまちであること

○ 歩いて楽しめること

魅力的な場所を歩いて回遊できるまちであること

○ 夜景が美しいこと

山と海に囲まれた地形の中に人々の営みが浮き上がる美しい夜景が、世界的に価値を認められているまちであること

○ 伝統的な文化や市民活動が豊富なまちであること

くんち、長崎さるくなど、国際交流の歴史の中で育まれ、また新たに芽吹いた文化や市民活動が豊富にあるまちであること

○ ものづくりが得意なまちであること

古くからある坂や橋に見られる自然石の設え**から現代の造船技術まで、その時代ごとの美しく先進的なものづくりの作法が見られるまちであること

○ 歴史あるまちであること

近世以来、国際都市として多様な交流の舞台となり、重層的な文化を育んできたまちであること

長崎の魅力のうち、
長崎駅周辺エリアに
とりこみたいもの

---

* 「頭端駅」･･･ 行き止まりで、そこから先はない駅のこと。終端駅。
** 「設え（しつらえ）」･･･場所やものの考え方。演出法。

第２章　私たちの目指す空間デザインとは

○ 空間デザインの基本方針

これらの「長崎の個性や強み」を際立たせ、長崎駅周辺エリアに「ここにしかない価値」を創出させるための基本方針を次のように設定します。

【空間デザインの基本方針】

1　世界でも類を見ない港に面した頭端駅の特徴を生かした長崎駅周辺のシンボル的な顔づくり

2　「乗換えの利便性」と「空間の快適性」を重視した新たな陸の玄関口づくり

3　長崎を代表する港・山・川などと調和した一体的な空間づくり

4　歴史文化・風土に出逢う、市民および来訪者の交流空間づくり

○ 空間デザインの心得

これらの基本方針に沿って長崎駅周辺エリアの空間デザインを進めていく際に配慮すべき最も基本的な事項を、「空間デザインの心得」として設定します。この内容および考え方については、次ページから詳しく解説します。

【空間デザインの心得】

（１）港・山・川のある風景とまちの歴史を尊重しよう

（２）歩くことが楽しくなるまちにしよう

（３）眺めを楽しめるまちでいよう

（４）長崎情緒が感じられるまちをつくろう

（５）活動で長崎らしさを演出しよう

２．空間デザインの心得

（１）港・山・川のある風景とまちの歴史を尊重しよう

長崎の土地には港町の記憶が積層しています。港町であることは、長崎らしさの根源であるとも言えます。そのため、まちが水辺とつながりを持っていることが重要です。また、その港町は山に三方を抱かれ、「円形劇場」と言うべきドラマティックな風景の中心にあります。長崎が長崎らしくあることの基本は、土地の記憶をきちんと継承し、個性的で豊かな周辺環境を尊重した「まちの骨格」をつくることにあります。

心得①　水辺とまちを結びつける軸を通す

・人の流れが集中する東西方向に、長崎駅のラッチ†外コンコースを貫き、水辺と市街地を結びつける「東西の主軸」をつくる
・駅舎によって、港へつながる「南北の軸」を形成する

心得②　長崎の新たな焦点をつくる

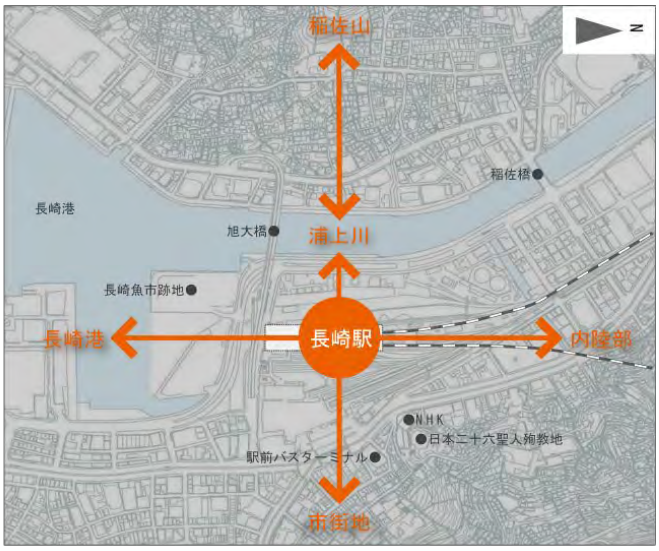
・「円形劇場」のような長崎の特徴的な地形の焦点にふさわしい象徴的な駅をつくる
・駅舎、駅前広場、周辺施設について、機能的・景観的に関係性を持たせた空間をつくる

心得③　長崎の歴史とのつながりをつくる

・長崎の有する歴史を踏まえた空間整備を行う
・港町らしい水辺との関係性を重視した空間デザインや演出を行う
・これまで取り組んできた景観行政を理解し積極的に継承する
・ウォーターフロント整備との一貫性、連続性を持たせた空間をつくる

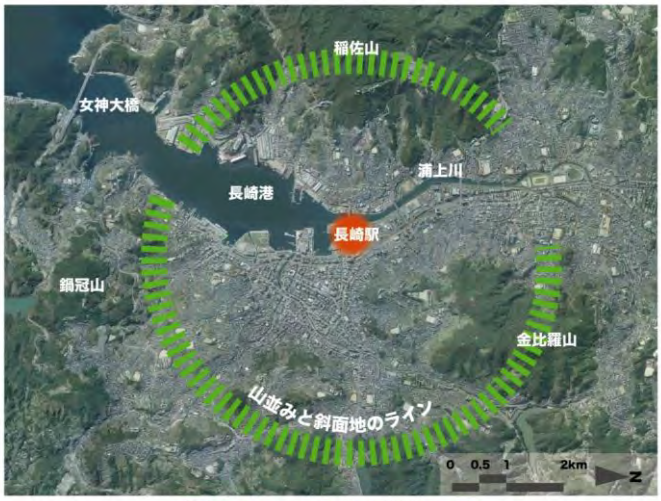
† 「ラッチ」･･･(英語:latch)ラチ。改札口のこと。鉄道用語。

【心得①｜参考図】長崎中心部の地形と長崎駅周辺エリアとの関係



◀ 長崎駅周辺エリアは、長崎中心部の地形的な特徴が交差する場所です。南北方向には長崎港と内陸部を結びつける軸があり、東西方向には稲佐山・浦上川・市街地を結びつける軸があります。このような「水辺とまちを結ぶ軸」の交点に長崎駅は立地しており、この象徴的な立地を、空間デザインの骨格に据えます。

【心得②｜参考図】「円形劇場」のような長崎の特徴的な地形とまち・港の関係



円形劇場のような長崎の特徴的な地形

◀ 長崎中心部は、周囲を山に囲まれたすりばち状の地形の底にあたる部分に港と市街地を有しており、長崎駅周辺エリアは、この特徴的な地形の中心部に位置しています。このような立地特性を最大限に生かす象徴的な空間をつくります。

【心得③｜参考事例】水辺との関係性を重視した空間デザイン（出島ワーフ）

◀ 港町である長崎にとって、水辺との関係性は、空間デザイン上、とても重要な観点です。かつて倉庫群により市民生活から遠のいていたエリアに出島ワーフなどを整備することで、水辺のにぎわいが創出されています。

（２）歩くことが楽しくなるまちにしよう

長崎駅周辺エリアの主役は歩行者です。鉄道・路面電車・バスなどさまざまな交通手段を結びつける交通結節点であるということは、乗り換える利用者または駅に到着した利用者すべてが歩行者としてこのエリアを体験するということです。そのため、歩いている人が快適に、便利に、安全にこのエリアを楽しめる工夫が重要です。また、回遊する歩行者が増えれば、それによってこのエリアの活力と魅力が一層高まります。より多くの人がこのエリアに集まり、回遊を楽しめる空間づくりを目指します。

心得④ 歩行者の回遊を引き出す

・場所ごとの魅力にあふれ、親しみやすいヒューマンスケール*な設えのある、歩いて楽しい歩行空間をつくる
・重層的で広がりのある歩行空間とそのネットワークをつくる

心得⑤ 歩行者にとっての分かりやすさ・利便性・安全性を重視する

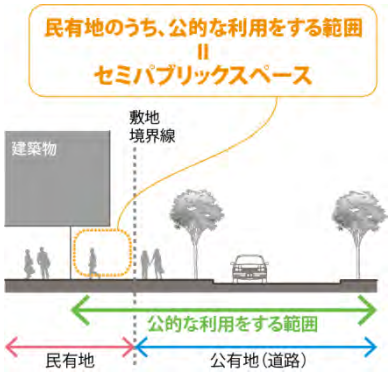
・公共交通機関相互の結節性を強化する
・初めてまちを訪れる人にも分かる交通施設の配置とする
・車との交差の少ない公共交通へのアクセスを実現する

心得⑥ セミパブリックスペース**を生かす

・公共空間と民有空間の連携・協力によって、ゆとりがあり、親しみやすいヒューマンスケール*な設えのある一体的な歩行空間をつくる

心得⑦ 溜まり空間を連鎖させる

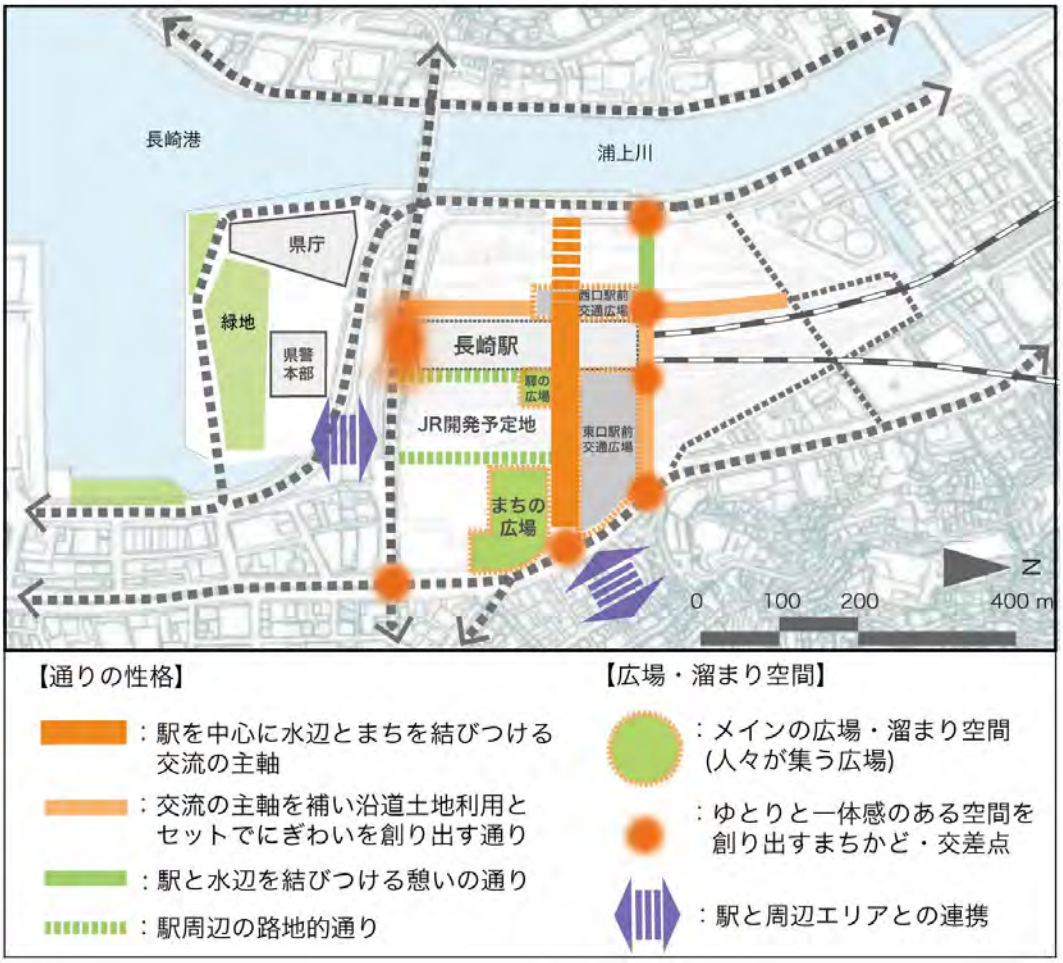
・人々の“居場所”となる空間をつくる
・多様な交流やにぎわいが生まれる空間をつくる



* 「ヒューマンスケール」･･･ 人間の身体の大きさや感覚に合った適切な規模・大きさ。例えば、無表情な平たい壁面が連続しているとヒューマンスケールとは言えないが、窓を設けたり飾り柱や軒を加えたりすることで壁面が分節され、ヒューマンスケールに近づく。大きな構造物や空間を構成する要素に、人間の身体寸法に近い設えを施すことが有効。

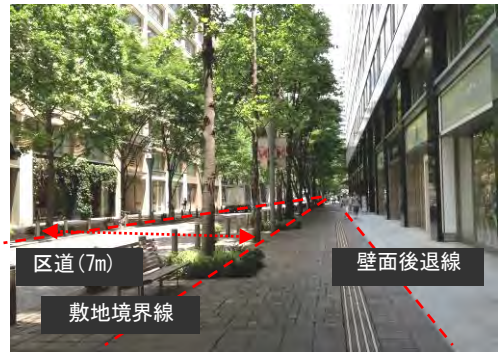
** 「セミパブリックスペース」･･･ 公有地（道路や広場など）と接する民有地で、公有地と一体となって公的な利用がなされるスペース。セットバック空間など。（右図参照）

【心得④・⑥・⑦｜参考図】 通りの性格を踏まえて、場所ごとの魅力を創出する
多様な人の“居場所”となる溜まり空間を細かく連鎖させる



【心得⑥｜参考事例】セミパブリックスペース

▲ オープンカフェの事例（横浜市）
歩道上への出店（道路占用許可済）と歩行空間とが一体となって、にぎわいや親しみやすい雰囲気を提供しています



▲ ゆとりある歩道空間創出の事例（東京都）
民有地の提供によって広幅員の歩行空間が実現し、通行機能と溜まり空間が両立しています

（３）眺めを楽しめるまちでいよう

多様な眺めは長崎の大きな魅力のひとつです。まちなかから見上げる山や斜面住宅地の眺め、山から見下ろすまちと港の眺めなど、長崎ほど魅力的な眺めが多くあるまちもありません。また、「眺められること」とはすなわち、長崎の資源を顕在化させることに他なりません。長崎駅周辺エリアは、周辺の山並みや港、歴史的資源を眺める「視点場」でもあり、周辺から眺められる「視対象」でもあります。そのため、多様な眺めを積極的に提供するとともに、周辺の風景との調和に配慮することが大切です。

心得⑧ 長崎港、稲佐山、浦上川等に対する建物等の建て方に配慮する

・建物等の建て方は、特に長崎港、稲佐山、浦上川などの周辺環境や日本二十六聖人殉教地などの歴史的資源への眺望に配慮する

・駅前広場から長崎らしさのひとつでもある斜面住宅地への眺望に配慮する

・稲佐山や立山などの視点場からの見え方に配慮する

・建築設備などの工作物も、周辺の視点場からの見え方に配慮する

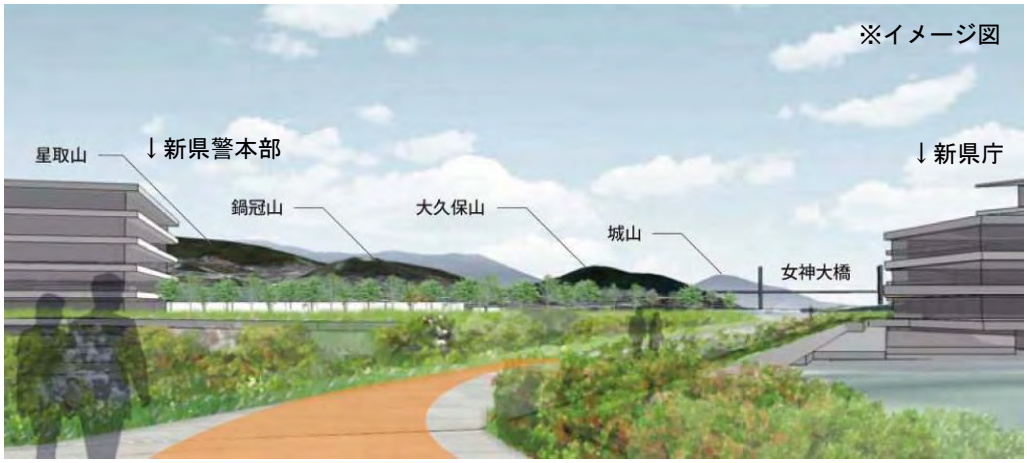
心得⑨ 風景との調和に配慮する

・建物の外観や工作物、屋外広告物等は、長崎駅周辺エリアにふさわしい質の高いデザインを目指す

・建物の中高層部の色彩については、周囲の風景と調和するように明度が高く、彩度を抑えた色使いとする（低層部は、心得④～⑦に従い、場所ごとの魅力にふさわしい色使いにする）

・建築設備や屋外広告物などの工作物については、周辺の視点場からの見え方や風景との調和に配慮した配置・形状や色使いとする

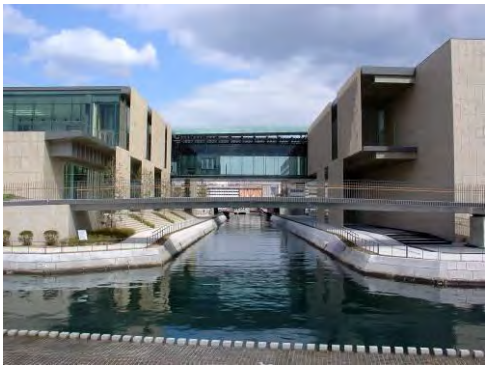
【心得⑧｜参考事例】港・山並みなどへの眺望を確保するため、建物の建て方に配慮



▲ 新県庁と新県警本部は、駅周辺から女神大橋・城山・長崎港等を眺めることができるように、視界を遮らないような建物配置になっています。
（図出典：長崎県総務部県庁舎建設課「長崎県庁舎 基本設計概要」2013）

▲ 長崎港松が枝国際ターミナルは、後背地から海への眺めを遮らないように、建物のボリュームを抑え、屋上部分は緑地になっている世界的にも例のないターミナルです。

【心得⑨｜参考事例】風景と調和した色使い



▲ AIG ビル（現メットライフ長崎ビル）（左）および長崎県美術館（右）は、環長崎港地域アーバンデザイン会議において、色使いなど、風景と調和させるためのアイデアが出され、現在のデザインとなっています。

（４）長崎情緒が感じられるまちをつくろう

詩歌にも登場することが多い長崎のまちには、独特の情緒があります。長崎の風土に根ざした情緒です。海のにおいのするそよ風、異国文化との交流を思わせる建物、しっとりと雨に濡れた石舗装の道、夏の日射しと木陰の涼やかな空気、にぎやかな喧噪に包まれながら感じる夕暮れから夜への時間のうつろいなど、五感に響くすばらしい財産がいたるところにあります。新しくつくられる長崎駅周辺エリアにも、長崎情緒を少しでもとりいれられるよう積極的に工夫をしていきます。

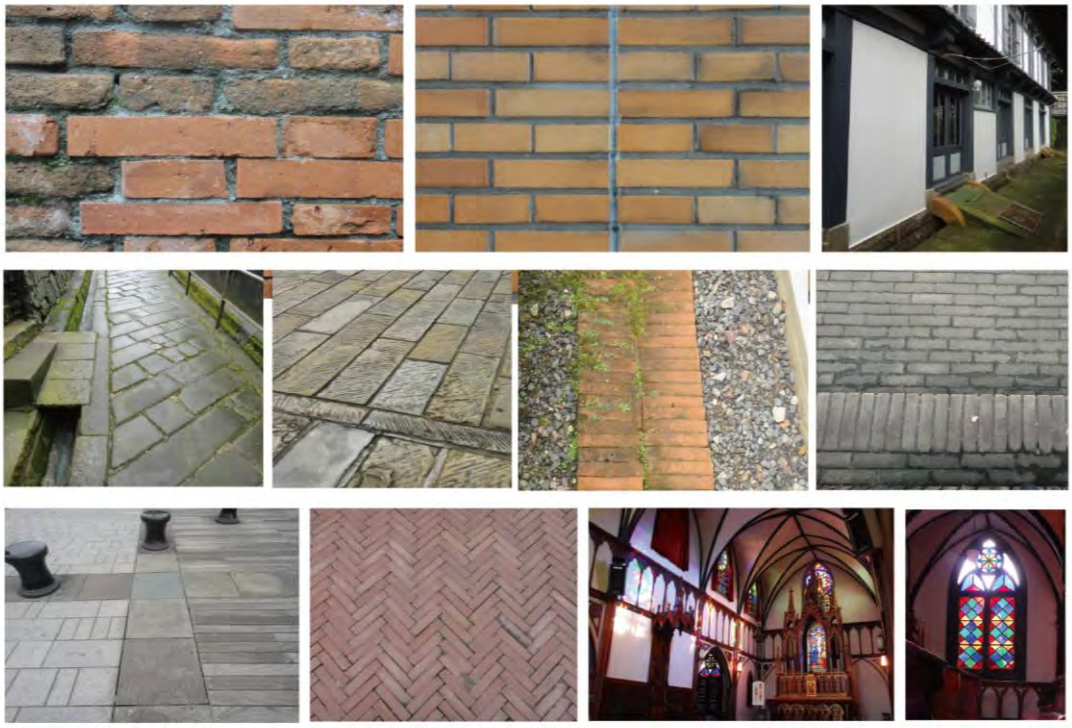
心得⑩ 長崎らしい材料・技術を用いる

・道路の舗装、建物の低層部などの人に近い場所には、長崎情緒をよく伝える天然素材を積極的にとりいれる
・駅舎をはじめとするシンボル的な施設等には、常に新しいことにチャレンジしてきた長崎の歴史を継承し、新素材や新技術を積極的に活用する

心得⑪ 駅を取り巻く周辺環境に呼応した形を考える

・歩行者が快適に歩いたり休んだりできるように、木陰や風の通り道をつくる
・風の流れが目に見える工夫をする（樹木・水面など）
・場所ごとの魅力を引き立てる樹種を選定する
・駅前広場や多目的広場は、晴天時には陽光と日陰が、雨天時には雨の風景と雨をよけられる空間がバランスよく確保されるようにつくる

【心得⑩｜参考事例】　長崎の材料・技術



①	②	③	
④	⑤	⑥	⑦
⑧	⑨	⑩	⑪

①ハルデス煉瓦（小菅修船場）②ハルデス煉瓦（出島バイパス下高架橋壁面）③ 漆喰（大浦天主堂）
④諫早石（ドンドン坂）⑤諫早石（オランダ坂）⑥煉瓦敷（大浦天主堂）⑦いぶし煉瓦（出島ワーフ）
⑧御影石＋砂岩＋木材（出島ワーフ）⑨煉瓦（出島ワーフ）⑩ ⑪色ガラス（大浦天主堂）

【心得⑪｜参考事例】　木陰や、風の流れが目に見える水盤

▲ 木陰のある道の事例（ロンドン）
豊かな緑陰を創りながらも、足元はすっきりとした樹木により、快適な歩行空間が生まれています。

▲ 建物の前面に水盤を配した事例（京都市）
建物の前面に水盤を配し、風が吹くと体感温度が下がるだけでなく、目にも涼やかな印象を与える工夫がなされています。

（５）活動で長崎らしさを演出しよう

長崎情緒をとりいれるもうひとつの大切な方法があります。市民の活動です。生き生きと活動できる空間こそ、交流の歴史とともにある長崎にとって本質的に必要なものです。また、生き生きとした活動こそ、長崎の魅力と活力を大きく盛り立てます。「夜景」も市民と事業者の活動が目に見える形で表れたもののひとつと言えるでしょう。長崎らしい空間をかたちづくるとともに、長崎ならではの市民活動の情報発信拠点として、また、祭りやイベントなどの表現の場として、存分に使いこなしていけるようにしましょう。

心得⑫　長崎の四季を彩る祭りなどを演出する

・季節を感じさせる祭りなどの活動で、年間を通して駅周辺を長崎らしく彩る

・祭りや日常的なイベントなどの活動ができる空間を実現する

・市内で催される様々な市民活動の情報発信ができるようにする

心得⑬　世界新三大夜景にふさわしい光を演出する

・光の演出で、長崎の夜景をさらに魅力的にする

・稲佐山などの視点場や山腹からの夜景の見え方に配慮する

【心得⑫｜参考事例】　長崎のさまざまな活動

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	
⑧	⑨	⑩	⑪

①②ランタンフェスティバル　③ 蛇踊り　④ おくんち
⑤ 紫陽花まつり　⑥ ハタ揚げ大会　⑦ 精霊流し
⑧ 帆船まつりライトアップ　⑨ 長崎夜市　⑩ ながさきクリスマス（大浦天主堂）
⑪ 平和の灯

【心得⑫｜参考事例】　福岡県柳川市「おもてなしの心大作戦」

▲ 水郷・柳川市では、駅を中心に「おもてなしの心大作戦」と銘打って、季節ごとのイベントカラー(春・赤/夏・青/秋・白)を定め、駅周辺を演出しています。

【心得⑬｜参考事例】　稲佐山から見た長崎の夜景

▲ **稲佐山から長崎駅方面の夜景**（現在の長崎駅周辺は暗がりになっています）

３．空間デザインのイメージ

（１）立山周辺からの長崎駅周辺エリアのイメージ

視点場：立山周辺

視対象：長崎駅周辺エリア

新しい長崎駅周辺エリアを立山周辺から望むと、多目的広場や東口駅前交通広場と周辺施設、新駅舎が一体となって人々でにぎわう様子が見られ、遠方には稲佐山の緑が広がっています。

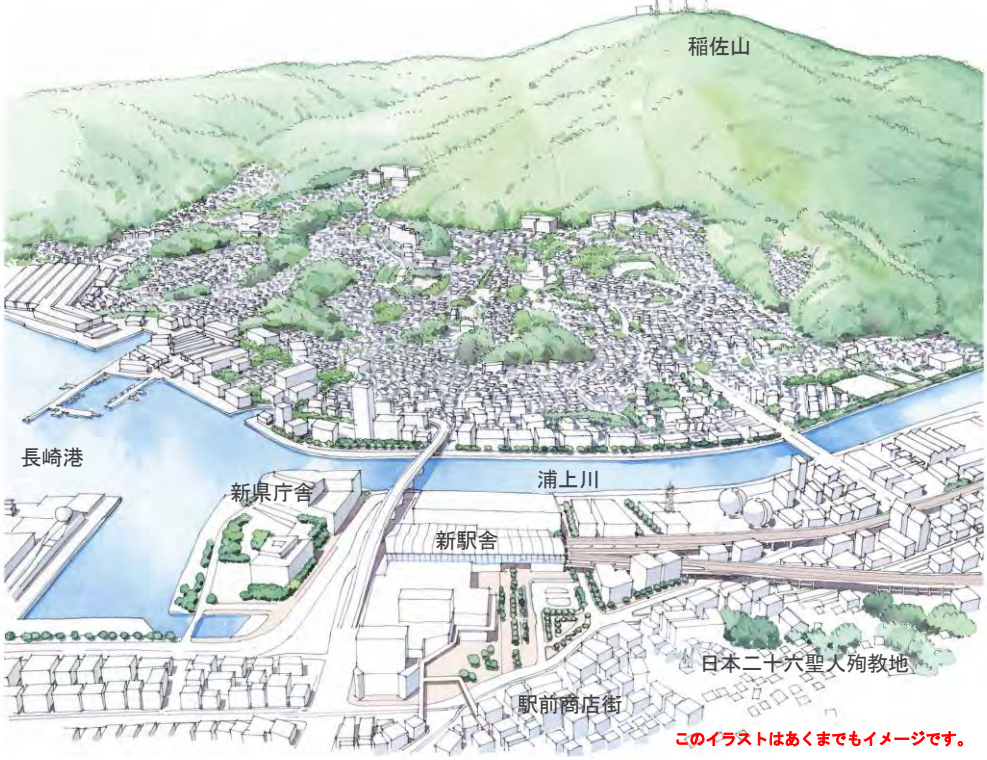
新駅舎と東西駅前交通広場を中心に、デザインに一体感のある、調和のとれたまちなみが広がります。

【主な心得】

〇新駅舎と東口駅前交通広場、周辺施設が、機能的・景観的に関係を持った一体的な空間を創ります【心得②】

〇長崎港、稲佐山、浦上川等の風景と調和する建物等の建て方に配慮します【心得⑧】

〇駅前商店街、新県庁舎等との関係を大切にしながら新たなまちを創っていきます【心得①・③・④・⑨】



（２）駅前商店街周辺からの駅東側のイメージ

視点場：駅前商店街周辺

視対象：稲佐山、新駅舎、東口駅前交通広場
　　など

駅前商店街周辺から駅東側を望むと、電停から新駅舎へと伸びる広幅員の歩道の両側に、人々でにぎわう多目的広場や、バス・タクシーに乗り換える東口駅前交通広場の空間などが望めます。また、新駅舎の背後には、稲佐山を望むことができます。

多目的広場では、市民による様々なイベントなどが開催され、市民や来訪者ににぎわいや憩いの場を提供しています。

【主な心得】

○広幅員の歩道は、新駅舎と駅前商店街などだけでなく、他の公共交通への結節性を高めることにより、新駅舎と中心市街地も結びつけます【心得①・心得⑤】

○水辺とまちを結びつける軸（広幅員の歩道）を通すとともに、溜まり空間やセミパブリックスペースなどを連鎖させ、歩行者の回遊性を高めていきます【心得①・④・⑥・⑦】

○長崎にふさわしい素材や樹種を用いた空間とします【心得⑩・⑪】

（３）新幹線ホームからの駅東側のイメージ

視点場：新幹線ホーム上

視対象：斜面住宅地、日本二十六聖人殉教地など

新幹線のホームから駅東側を望むと、新駅舎から駅前商店街へと広幅員の歩道があり、その先には、長崎特有の斜面住宅地や歴史的資産である日本二十六聖人殉教地などが望めます。

広幅員の歩道や東口駅前交通広場が、電車やバスへのスムーズな乗り換えを誘導するなど、来訪者をまちなかへと誘います。

【主な心得】

〇広幅員の歩道と東口駅前交通広場の空間が、斜面住宅地など長崎らしい眺望を確保します【心得①・③・⑪】

〇駅から既成市街地へ向けて、快適に楽しく歩ける動線を確保します【心得④・⑤・⑪】

〇バス停などの交通施設をわかりやすく配置し、既成市街地との回遊性を高めます【心得⑤】

（４）西口駅前交通広場からの長崎駅西通り線北側のイメージ

視点場：西口駅前交通広場

視対象：長崎駅西通り線北側など

西口駅前交通広場から長崎駅西通り線北側を望むと、在来線の鉄道高架と沿道のまちなみを一体的に魅せる緑豊かな長崎駅西通り線が望めます。

新駅舎の西側には、人々が溜まり憩える空間が配置されています。

【主な心得】

〇駅西側にも歩いて楽しい歩行空間を創ります【心得④・⑤・⑥・⑦】

〇長崎港、稲佐山、浦上川等の風景と調和する建物等の建て方に配慮します【心得②・⑧】

〇新駅舎東西の溜まり空間を連鎖させていきます【心得④・⑥・⑦】

このイラストはあくまでもイメージです。

（５）港側からの駅南側のイメージ

視点場：新県庁舎

視対象：新駅舎など

港側から長崎駅周辺を眺めると、頭端駅としての特長的な新駅舎南側が望めるようにします。

シンボル的な新駅舎と調和するように、周辺建物などは建て方や色彩などに配慮します。

【主な心得】

〇新駅舎を含む周辺建物の南面のデザインは、港側からの見え方に十分配慮します。【心得②・⑧・⑨】

〇元船エリアと駅周辺との結びつきを高める歩行動線を確保します。【心得①・④】

〇長崎にふさわしい素材を用いたり、周辺環境に配慮した空間とします。【心得⑩・⑪】

（６）新幹線ホームからの長崎港を見たイメージ

視点場：新幹線ホーム

視対象：長崎港、鍋冠山など

新幹線ホームから長崎港を望むと、海や山などの特長的な風景を眺めることができるようにします。新県庁舎等は、新幹線ホームからの眺望を確保するように配置されています。

【主な心得】

〇長崎駅は、特長的な長崎の地形の焦点にふさわしい、シンボリックな内部空間を持つ駅舎デザインとします。【心得②】

〇新幹線ホームから長崎港、鍋冠山等への良好な眺望が確保されるように建物の建て方に配慮します。【心得⑧・⑨】

〇新幹線ホームは、強い陽射しを避けて、海からの風を感じられるように配慮した空間とします【心得⑩・⑪】